

第6回交渉会（8月12日）における討議事項

平成27年8月5日

みそら自治会事務局長 日和 一郎

他市の例では用地選定に苦慮している所が多い中、当市では用地が確保され、修理に莫大な費用がかかる想定しているにも関わらず、何故市は8年もの長期の移転計画をたてるのか理解出来ない。

- 1、地元同意を得るためのスケジュールと具体的な内容。平成18年に市が吉岡の皆さまへという新興策をベースに地域の意見をまとめて市が提示していけば承認が得られやすいのではないかと。
- 2、山鹿市の調査から計画に何を反映したのか。
- 3、計画の業務事項の中で2～9までは以前から指摘しているように同時並行的に実施しなければ期間短縮にはならない。
そのために必要な事はコンサルタントを選定して早急に計画、構想、地域新興策をまとめる必要がある(上記1項目にも関係する)。それはどのような手順が必要か。そのスケジュールを具体的に示すように。
3項目の基本計画の見直しに何故1年かかるのか。基本計画策定に前回は9ヶ月。更に、その他の項目に1年というのはいい加減としか言えない。
- 4、ごみ処理対策委員会は現在どうなっているか。メンバー、最近の開催日、内容。その委員会を個々の項目(3～6)で諮問、答申となっているがそのスケジュールを示すように。
- 5、市民参加条例があるから参加させるというのはよいが、諮問から答申の期間が決まっているわけではない。短縮する方法はなにか。
- 6、8、9項目について審査委員会で検討することになっているが、何時選任されるか。市の説明では10億を超えるプロジェクトでは検討することになっているというが、そうであるなら、他にもプロジェクトはあるであろうから、現在も委員会は在るはずである。今回予定している、審査の具体的な内容、スケジュールを示すように。
- 7、10項目の環境アセスは早期に実施可能。
- 8、今後、8月中に少なくとも今回を含めて4～5回はこのような交渉を開くこととする。

以上

